マイウェイ my way

伊藤製作所社長

伊藤　澄夫 38

インドネシア進出

インドネシア金型工業会との連携を深めるため、日本金型工業会の視察・投資ミッション団が２０１０（平成22）年11月９日にインドネシア入りした。日本の工業会として初のインドネシアへの本格的な訪問団で、私は団長として参加した。

インドネシア工業省のハムダニ次官、インドネシア金型工業会会長の高橋氏、ジェトロの藤枝氏と私があいさつした。私は「インドネシアの２億５千万人の人口は、マーケットの大きさとしても魅力がある。アジアでも屈指の友好国で、車の90％以上は日本車である。日本の精密で生産性の高い技術を持ち込み、貴国の工業発展に寄与したい」とお伝えした。

親日的で勤勉な国民性

このミッションでは当地工業省、ジェトロ、当地の金型工業会各社、顧客、通訳、新聞社などに前もって参加のお願いをしておいた。海外視察では何社もの企業を短時間訪問するだけではビジネスにはつながらない。今回、日本の工業会会員各社は長時間をかけ、通訳を介して合弁候補との顔合わせや、現地の顧客との商談会を具体的に進められる機会を持った。このようなミッションを計画した理由は、今世紀に入り、日本やドイツの幅広い技術が近隣諸国に広まっているが、日本の金型技術が一歩進んでいる時期に海外と結びつきを強めることが急務であると考えたからだ。

成熟期に突入した日本では、少子化が年々進み、若者のモノづくり離れが予想される。よって日本が永久にモノづくりで優位に立ち続けられる保証はない。出発前から、「今回の視察は具体的な成果が期待できるだろう」と吹聴していただけに、結果が気になっていた。１年余りが経過し、工業会の会合で元団員の皆さんに結果を聞いたところ、３社が現地への進出を決定したと聞き、ホッとした。

当社は１９９６（平成８）年にフィリピンで創業した。マーケットが小さいため、売上高の伸びは緩やかながらも、他社と比べても業況は順調だ。２５００キロメートルも離れた国で、優秀な人材が育ち、あらゆる面で日本本社を支援できる体制ができたことに満足している。そんな理由から、このミッションでは皆さまのサポートに専念した。私のその行動をくまなくウオッチングしていたのは、後に合弁相手となった財閥、アルマダ社のブディヨノ専務だった。その後の経過は明日述べたい。

2010年（平成22年）11月11日　木曜日　6　The Daily Jakarta Shimbun

初の使節団15人が来イ

「親日的で勤勉

じゃかるた新聞

Rp.12,000

会場で自社製品を紹介する伊藤氏（中央）

日本金型工業会

現地の「じゃかるた新聞」に掲載された訪問団の記事